

調布に残る松



かつて武蔵野に自生したマツは主としてアカマツだったという。今では市内でその松林の面影を残すのは入間町二丁目の中央学園通りにある、右写真の小さな三角地帯だけである。ここは国分寺崖線の一部であり、N.T.T.の敷地であったためになんとか残されてきた。

調布の古木を紹介した本によると大正初期、明治神宮の造営にあたり、調布からもクロマツを献木したという。丸山（現つじヶ丘）と称した丘の上の雑木林からクロマツが選定され、神代村役場に集まった50名ほどで高さ15m位のものばかりを掘り起こしたそうだ。それを馬力や荷車15台ほどに積んで砂利道の甲州街道を代々木まで運ぶのは困難を極めたそうである。

今でも上ノ原公園から上、神代中学あたりの台地には、わずかに自然林だった頃の松が残されている。

写真のアカマツ林も今後、道路拡張のため何本かが伐採されるという。残念ながらこの風景がみられるのはあとわずかなりなりうだ。

→上の原公園に残るアカマツ。この公園には松だけでなく雑木林だった頃の樹木が残され当時の雰囲気が残る、木陰の多い公園となっている。



→電通大の敷地はその昔柳沢吉保のお屋敷になる計画もあった場所だそう、なかなか良い雑木林だったことがしのばれる。今でも何本もの立派な大木がそびえている。松もかなりの本数がみられ、美しい赤い木肌を見せている。



←河原にはクロマツが多い。多摩川原橋のすぐそばにあるこの松は、運搬にイカダを使っていた頃は繋ぎとめるために使っていたという。一名、イカダの松



←虎狛神社のクロマツ。最も樹高があったものは東京の三大巨松、とされていたが枯れてしまったようで、今では切り株しかない。残っているこの松も三十メートル近い高さがあるのではないだろうか。他の樹木から飛びぬけて見える。

その他、深大寺・布田天神・糟領神社などにも大きなマツが見られる。文字通り鎮守の杜としてこれからも生き残って欲しいものだ。



花の履歴書

アカマツ (赤松)

戸部英貞 (絵・文)

マツ科



Pinus densiflora Sieb. et Zucc.

我が国のマツはアカマツとクロマツの2種が中心で、アカマツは日本列島から朝鮮、中国東北部、ウスリーまでの広い範囲に分布し、内陸部に自生している。これに対するクロマツは本州から朝鮮南部の海岸線が自生地帯で、塩害に強く防風林として、日本の自然美の一つに数えられている。

マツの葉は2、3、5、8葉があり、我が国産のものはアカマツとクロマツが2葉で、他はすべて5葉である。また他の植物と異なり年々更新せず、3〜4 (アカマツは2〜3) 年で落葉し、寿命が長い。

マツ材は樹脂が多く腐りにくいため土台や梁などの建築用材のほか橋材や水辺の杭などに使われている。また古くは根の心材を塔火や松明に使われ、戦時中には多摩川周辺にあった松林の根を掘り起こし、「松根油」を搾油し、軍用車両の燃料にしていた。

用材としての価値だけでなく、風雪に耐えた樹形や樹林の美しさ、巨木やしめ縄が張られ神木、美林の名所などを各地で見ることが出来る。またクロマツやアカマツは常緑で針葉が2つずつ短枝につき、2葉が一緒に落葉することから夫婦のちぎりの深さにたとえ、縁起植物 (献歳植物) として庭園樹や祝事に使われ、万葉集には77首が詠われている。

正月の松飾りに使われる松竹梅は中国の故事によるもので、松は長寿、家運の繁栄、竹には子孫繁栄、梅には君子の徳を祈念するものであるが、現在は日本独特のものになり、中国では用いられていないようだ。

アドベンチャー IN 多摩川 2010

水辺の楽校

「調布水辺の楽校のイベント」が子供たちにとって夏休みの最後の8月28日の土曜日に猛暑の中、京王線鉄橋をはさんだ多摩川の上流で行われました。

今回は①「川流れ」(ライフジャケットを着てふわふわぶかぶか)の他に②新メニューとして「多摩川リバーシップの会」の協力を得てEポート体験(大型の手漕ぎカヌー)が加わる充実した内容となりました。

一番人気はやはり「川流れ」で、流れてくる子供たちを下流で待ち受ける保護者の方々も水の中に入り、暑さ凌ぎで楽しそうでした。



初めてのポート漕ぎ体験では水上から見える川の中の大きな鯉に興奮している子供や、ガサガサ漁で逃げ回る魚を捕獲して大喜びの子供たち。参加した親子の皆さんにとっては楽しい夏休み最後のイベントとなりました。

最後にサポーター差し入れの冷たいアイスクリームをみんなでお楽しみ、ちよび疲れが取れたところで解散。灼熱の太陽を浴びながら炎天下でがんばったサポーターの方、付き添いの方々本場にお疲れ様でした。

こんなにも自然に川の中に入っていけるほどきれいになった多摩川に、バンザイ!

(里)

ちょうふあちこち

へび山 (郷土博物館分館隣)

布田の郷土博物館分館のあたりは染地遺跡の発掘地になっているが、二十年くらい前までは布田崖線の雑木林として鬱蒼としたところだった。その後市民グループが何回か笹刈りなどの手入れをしたこともあるが、数年前から行政の管理で樹木が何本か切られ、下草刈りもされるようになっていた。22日、久しぶりに訪れてみると木洩れ日の下たくさんのヒガンバナのツボミが見られた。数年前は数株の花が咲いただけだったので、雑木林の中が明るくなった効果ではないだろうか。(NK)



田んぼの学校

昨年、私たちの田んぼでは収穫の半分近くをすずめに食べられてしまいました。隣のおコメよりおいしいのかどうかはわかりませんが、これまで18回のおコメ作りで最悪の収穫となりました。今年は、田んぼ全体を防鳥網で覆いました。これで万全と思いきや、一部のスズメが網の目をくぐってお米を食べているではありませんか。やはりこれしかないかと、今年も、みんなでスズメを追い払うべく、案山子を作りました。(尾辻)



◆カミ山の会

8/14(土)曇り 参加者3名
人数が少ないため状況の確認のみとした。先月葉を切り取ったシユロの先に、もう数枚の葉が出ていた。上段の笹もまたのびてきていた。花はほとんど見当たらない。

ざっと見回っただけだが、初期の頃と違い、作業量を減らしても維持できる状態になっていると感じる。その分、今後は子供達とのイベントなどをやっていったらいいのではないだろうか。

9/11(土)晴れ 参加者9名
笹の密度の濃いエリアについて、選択的に刈り取った。

シユロの幼木は、スコップを用い抜き取り、成長した木については、シユロの葉の切り取りを行った。倒したシユロの樹皮(?)は削り取り、柵の横木として使用した。

気になっていた下段入り口付近の右側にある、残材置き場は整理してシユロ、大材、小材、葉に区分、これはエコスタックとしても活用することに。

今年の夏は雨が少なく、他の所はカラカラだったのに、実生が育っており、落ち葉の下から、ヤブコウジ、コナラ、エノキなどの芽生えを発見し、嬉しかった。

◆若葉緑地の会

8月は夏休みにしました。

9/12(日) 参加者9名

入間町のNTT内のグラウンド周辺の観察をしました。ツユクサ、ヤブラン、ミ

ズヒキ、キンミズヒキ、ハギ、クズ、ツクバネウツギ、等の花が暑い中をたくましく可憐に咲いていました。初めてグラウンド周辺まで入った方も多く、広いですね、深い森があるので、ねなどの声もありました。一時間ほどで終了し、第三緑地に戻りこれからの保全活動などを話し合いました。(住田)



若葉緑地の会看板 NTT樹林のようす

◆入間・樹林の会

8/8(日) 参加者8名

猛暑の中、方形枠調査をしました。新人二人がいるグループには根本さんに調査方法の説明をしていただきました。

猛暑と雨が全く降らなかったせいか、いつも湿気が多い樹林地内の地面がひび割れている光景をはじめ目にしました。特にシャガの広場の地割れがひどく、杉の伐採が関係したのではないかと、また



地割れした地面

シャガよりヤブミヨウガが繁茂しているのは、ヤブミヨウガに適した環境に変化したためではないかと根本さんからの指摘がありました。ヤブミヨウガはあ

まりにうつそうとしていたので見通しと風通しをよくするために9月に刈る予定です。花はキツネノカミソリ、クサギ、アジサイ、ツユクサ、ヤブミヨウガが咲いていました。実はエゴノキが、また、これまでみたこともなかったカブトムシとクワガタ

がカラスの仕業か? 数匹落ちていました。樹林地内に存在していることが確認できうれいしい発見になりました。

キツネノカミソリ



9/11(日) 参加者4名

日程変更のため

参加者が少ないながらも民家に面したシャガの広場(現在はヤブミヨウガが占拠)の下草刈り

をしました。花は、ヤブランが良く咲いていて他にアザミ、キツネノカミソリ、キツネノマゴ、ヨウシュヤマゴボウ、ツユクサ、ヌスビトハギ、イノコズチが、トウネズミ

◆環境モニター

9/4(土)晴れ

モチ、ヤブミヨウガ、ヨウシュヤマゴボウが実をつけていました。この暑さのせいか、鳥の鳴き声は聞こえてきませんでした。(安部)

環境モニターとしては初めてのNTT敷地内観察。花の少ない時期でもあり、春のようなわけにはいかないが、講師の小澤先生も「調布にもこんなにいい森があるんですね」というほど、自然の残るすばらしい場所。目についた植物だけでも百種類以上記録できた。秋の花、ヌスビトハギが可愛い花を咲かせ始め、地味な花をつけたコヤブタバコも発見。

これは山野の林ではそれほど珍しくないが調布市内ではほとんど見かけない花。



コヤブタバコ

最後に歩いたグラウンドの端には大きなヒマラヤスギがあり、沢山のマツボックリ(?)をつけていた。普段は大木の上の方に実るのでこんなに間近で観察できたのは嬉しい。

ここは貴重な自然の残る場所。事情がゆるせば定期的な観察をしていきたい。

(NK)

ちょうふの自然みつけた!

環境市民会議メンバーのメーリングリストより

8月14日 立秋は暦の上だけ、今年の夏の暑さの異常さは虫の世界にも影響しているのか、梅雨が明けると同時に猛暑の連続、ニイニイゼミの声を聞く前からアブラゼミが鳴き、ミンミンゼミ、ヒグラシも殆ど同時に鳴き、シーズンの最後を告げるツクツクボウシまでを同時に聞いたのは初めて。それでも今朝窓を開けると木立の中からカナタタキの鳴く声が聞こえ、季節の到来を感じたが、直ぐにミンミンゼミの鳴き声にかき消されてしまった。(HT)

9月7日 つばめが見られなくなっていますが、もう南へ帰ったのでしょうか? 今年は異変が続いているので気になります。(YO)

「ヒガンバナ開花情報求む」の声に二十一日、いくつかの情報が集まりましたが、やはり今年の開花は少しくれていくようです。道端のヒガンバナはまだツボミが多いようです。

9月21日 野草園でヒガンバナが咲いています。(TS)
鶴川街道沿いのお宅(多摩川)の門につばみの状態を見つけてきました。(YO)

我が家のヒガンバナは例年立秋の日に満開ですが今年はまだつばみで、シロ花はまだ出てきませんが黄色い花のショウキラン(別名ショウキズイセン)が一本だけ出てきてます。今年は雨が降らず庭の土を掘ってみましたが1メートルぐらゐまで乾燥していました。遅れの原因の一つと考えられます。深大寺北町の青木そば屋さん(武蔵境通り)の所に黄色い彼岸花が咲いていました。(KT)

9月22日 カニ山東樹林入口とへび山で、ヒガンバナが咲いていました。とくに、へび山では、大多数が未だつばみではありますが、大群落が出現していました。3〜4日後には見ころになるでしょう。



野草園(これから花びらが反り返るのでしょうか?)



青木屋(ショウキズイセン)



へび山

?これ何?
なんだかきれいなまだら模様。カニヤマの会の報告を読むと謎がとけますよ。



編集後記

もう何十回も聞いたと思いますが、今年の夏は暑かったです。9月22日に雑木林塾の下見をしたときもかなりの暑さでしたが、それでもヒガンバナがチラホラ。そして23日の雨とともに急に秋が来ました。でも数年たつとそんなことすっかり忘れてしまうのですよ。そのためにも自然だよりを!(鍛冶)

ペランダの「食べられる緑カーテン」。朝晩眺めて癒やされた。猛暑で水やり用のプラスチックの水がお湯になっていたがめげずに葉を茂らせた。オレンジ色になったゴーヤの実は生食可です!(江刺)

環境市民活動スケジュール

入間・樹林の会

原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへおいで下さい。

- 10 / 17 (日) 9:30 ~ 12:00
- 11 / 21 (日) 9:30 ~ 12:00

カニ山の会

原則毎月第2土曜に深大寺自然広場東樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接野草園横へ。

- 10 / 9 (土) 10:00 ~ 12:00
- 11 / 13 (土) 10:00 ~ 12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 10 / 10 (日) 9:30 ~ 12:00
- 11 / 14 (日) 9:30 ~ 12:00

◆先の3グループとも活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。042-481-7083

野川とハケの森の会

● 10 / 3 (日) 10:00 ~

・野川清掃、アレチウリ除去も。集合 谷戸橋そば「かわせみ館」前
問合せ: 070-5566-3437 大山

身近な川を見守る会

● 10 / 23 (土) 9:40 ~ 12:30
集合 9時半 御塔坂児童遊園
野川の水生生物調査
問合せ: 042-487-3087 池辺

市民発 ちょうふの自然だより

◆この「自然だより」は 2009.3.15 に設立された市民組織「ちょうふ環境市民会議」が編集発行しています。身近な自然情報や写真、環境イベント案内、市民活動の記録、花のコラムなどを掲載しています。カンパとボランティアで支えられて現在隔月発行中です。

◆「自然だより」は調布市環境部(市役所8F)、市図書館 10 館、地域福祉センター、あくろす 2・3 F、たづくり 11Fみんなの広場、郷土博物館、実篤記念館、のほか、曼珠苑さん、みさと屋さん、などに置いてあります。ひきつづき応援団募集中です。